

1: 出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・平林・大塚^c・吉田^c・黒河^{cd}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 今年度の特別会計の予算が認められた。(加藤)
- 久保野氏と共同で提出していた特定領域科研費(北大センター)がヒアリングとなり、大塚・須田両氏とヒアリング資料を作成中である。(加藤)

資料の中身:

1. 甲南大グループとの共同研究として、核反応データの収集および評価と、それを用いたネットワーク計算コードの構築を行う。
 2. 元素組成の観測データに関するデータベースの作成を行う。
- 核データの科研費(400万円)が採択され、NRDF/Aという新しいデータベースの作成名目で使用可能である。(加藤)
 - 片山氏が4月からワーキンググループの会議に毎週参加することになった。(片山)
 - 辞書ワーキンググループ報告。詳細は別資料参照。(吉田)

3: 議論

- 特定領域科研費における核データセンターと理研との関係について議論を行なっている。(継続)
- NRDF/Aの作成方針について(継続)
*観測データを収集するだけでなく、データ評価(データが存在しないところについても評価を与え、ネットワーク計算に使える)につながるようなデータベースにしたい。
*アカデミックな立場(星の中での元素合成)と実用的な立場(例えば、原子炉中での生成物の評価)が結びつけられるようなデータベースにしたい。
- 核データ報告書の配布方法について
現在、国会図書館にのみ紙面で配布している。
今後は、WEB(PDFファイルを載せる)やCD配布は科研費の使い方として可能だが、印刷体で配布するのは難しい(CDの説明書程度なら可能)。

[今後の方針](承認)

助言委員、管理運営委員会のメンバー、国会図書館などへの配布を考え、数十部の印刷は行う。
核データ活動を外へアピールするために、webに加えてCDでも配布する。

- 部会承認済み議題

A) NRDF採録関係

1. 修正されたマスターファイルのチェック実施
D707、D1260については黒河、鈴木が再検討しての報告が必要。
EXPセクションにおける入射エネルギーの採録法("RANGE"の有無など)について確認する必要がある

あり、この点一般的な問題として要検討。

2. コードがあるのに値が X となっているファイルの修正

D819 と D1312 はそれぞれ当該雑誌コードが適当であることが、確認されたので修正を認める。
(承認)

D228 については、採録者(能登)に REF を X とした時の状況について要確認。(継続)

3. 研究機関コードに対する Obsolete フラグ (承認)

2JPNINS, 2JPNOHT, 2JPNHYO はフラグをなくして利用可とする。

2JPNJCL(理研サイクロ研)は核研、RCNP ほどの独立性はなく今後も廃語扱。

4. 光学ポテンシャルの表に数式が混じる場合の取り扱い (例 D100)

A 案: 関数の表現を必要とするものは取らない

B 案: 関数の表現を必要とするものはフラグでとる

```
¥DATA;
V      RR  AR  WS  RIS  AIS  VSO  RRSO ARSO FLAG
(MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (NODIM)
X      1.15      0.7  0.76  1.5  0.7  2.5      1.0      0.7  1
84.8   X      0.25  0.0  X  X  1.625      1.0      0.25  2
44.8   X      0.25  0.0  X  X  X      X      0.25  3
44.8   X      0.25  8    1.8  0.4  X      X      0.25  4
41.8   X      0.25  0.0  X  X  X      X      0.25  5
¥END;
/* 1:d+4He      V=84.5-0.9E
   2:d+4He      RR=1.5-0.005E
   3:p+5He      RR=1.5-0.01E      RRSO=2.5+0.1E
   4:p+5He      RR=1.5-0.01E      RRSO=2.5+0.1E
   5:n+4He      RR=1.5-0.01E      RRSO=3.0+0.1E */
```

C 案: E の関数として表に完全に取り込む

```
¥DATA;
V      RR  AR  WS  RIS  AIS  VSO  RRSO ARSO FLAG
(MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (MEV) (FM) (FM) (NODIM)
84.5-0.9E 1.15      0.7  0.76  1.5  0.7  2.5      1.0      0.7  1
84.8      1.5-0.005E 0.25  0.0  X  X  1.625      1.0      0.25  1
44.8      1.5-0.01E 0.25  0.0  X  X  2.5+0.1E 1.5-0.01E 0.25  2
44.8      1.5-0.01E 0.25  8    1.8  0.4  2.5+0.1E 1.5-0.01E 0.25  2
41.8      1.5-0.01E 0.25  0.0  X  X  3.0+0.1E 1.0      0.25  3
¥END;
/*E:Incident energy 1:d+4He 2:p+5He 3:n+4He*/
```

後々のデータ評価の参考となるように、ポテンシャルの関数形を明記しておくことが重要である。ただし、C 案そのままでは採録後の変換が通らないと考えられるため、運営委員会では B 案で承認とする。

5. 混合物標的の物理量の採録法 (承認)

- 物質名が一般に定着している場合 (既採用の方法であり、今後も継続) :

その物質名をコード化し、化学的形狀、反応式の標的の項に用いる。このコードはCHMのとりうる値として辞書8.3(化学的形狀)に登録し、またRCTの辞書13(粒子)にも登録する。

- 物質名が一般に定着しているとみなしがたい場合(新規に承認) :

その物質はコード化せず、化学的形狀のところにはXを用い、反応式の標的の項には、MXTR (mixture)というコードを用いる。

6. 入射エネルギーの関数として与えられた断面積のPHQの値

例えば $d\sigma/d\Omega$ が角度固定で入射エネルギーの関数となっている場合、EXC-FUNCTがあった方がよい。(承認、既存の採録済ファイルも確認)

図の縦軸、横軸両方の情報がコードに反映させられるのがよい。このために必要な具体的作業については今後検討する。(継続)

7. 今年度(5月から2月まで)の採録予定(継続)

新規採録30編、チェック51編、レフェリー60編

- (1) レフェリーは部会にて40編、委員に20編を依頼する。
- (2) 部会のレフェリーは研究員が予め問題点等をまとめて部会で報告する。
- (3) 上記作業を処理するのに採録、チェック、プレレフェリーを各々1作業単位とすると、研究員1人が月約4作業行うこととなる。

上記の作業内容については、NRDF/Aのデータベース作成作業と絡むので、まとめて再提案する。

B) 新規・修正コード

=====

1. 新規(承認)

- * KBR. (V型クラス8.3) : KBr
- * INC-ENGY-LAB-MIN (H型) : Incident energy in lab. system (lower limit)
- * INC-ENGY-LAB-MAX (H型) : (Incident energy in lab. system (upper limit))

2. 修正(承認)

以下いずれもObsoleteフラグを外す

- * 2JPNINS (V型クラス1) : Inst. of Nuclear Study, Univ. of Tokyo
- * 2JPNOHT (V型クラス1) : Ohita Institute of Technology
- * 2JPNHYO (V型クラス1) : Hyogo Agriculture University

4: 次回

2006年6月5日 18:30~